

## 「ヤマトはクニのまほろば」ほか『古事記』のココに注目！

---

平成 24 年 6 月 6 日

奈良国立博物館

『古事記』中巻「景行記」には倭建<sup>ヤマトタケル</sup>の物語が記されています。このたびの特別陳列「古事記の歩んできた道」では、『古事記』最古の写本である真福寺本（国宝・大須観音宝生院蔵）から、倭建の発した雄叫びや有名な思国歌<sup>くにしのびうた</sup>の原文を見るることができます。日本の言葉を漢字の音で表記していますので、その解説をお楽しみ下さい。文化財保護のため、該当ページの展示期間は限られています。ぜひお見逃しないようにお出かけ下さい。

なお、別の写本では、会期を通じてこの思国歌<sup>くにしのびうた</sup>をみることができます（展示箇所の表を参照下さい）。

### 【1】「アヅマはや！」（東国をアヅマの国と呼ぶようになった起源）

◆展示期間：6月 16 日（土）～24 日（日）

◆原文：故登立其坂三歎詔云 阿豆麻波夜 自阿下五字音也 故号其國謂阿豆麻也

◆釈文：その坂に登り立ちて三たび歎かして 詔<sup>なげ</sup> みごとの りたまひしく、「あづまはや」（阿より下五字は音なり）、故にその国を号けて「あづま」というなり。

◆口語訳：（足柄山の）坂に登り、頂<sup>かなた</sup>に立つと彼方を見はるかし、

「吾妻<sup>あづま</sup>はや（わたしの妻よ）」と言うて、三たび嘆かれたのじゃ。

走水の海の渡りの神に身を捧げたわが妻、オトタチバナヒメのことを思いおこされたのよう。それで、足柄の坂より東の国を、アヅマと呼ぶのじゃ。

※三浦佑之『口語訳 古事記 [完全版]』2002 年 文藝春秋を一部改編

【2】「ヤマトはクニのまほろば…」（有名な思国歌）  
くにしのびうた

◆展示期間：6月26日（火）～7月1日（日）

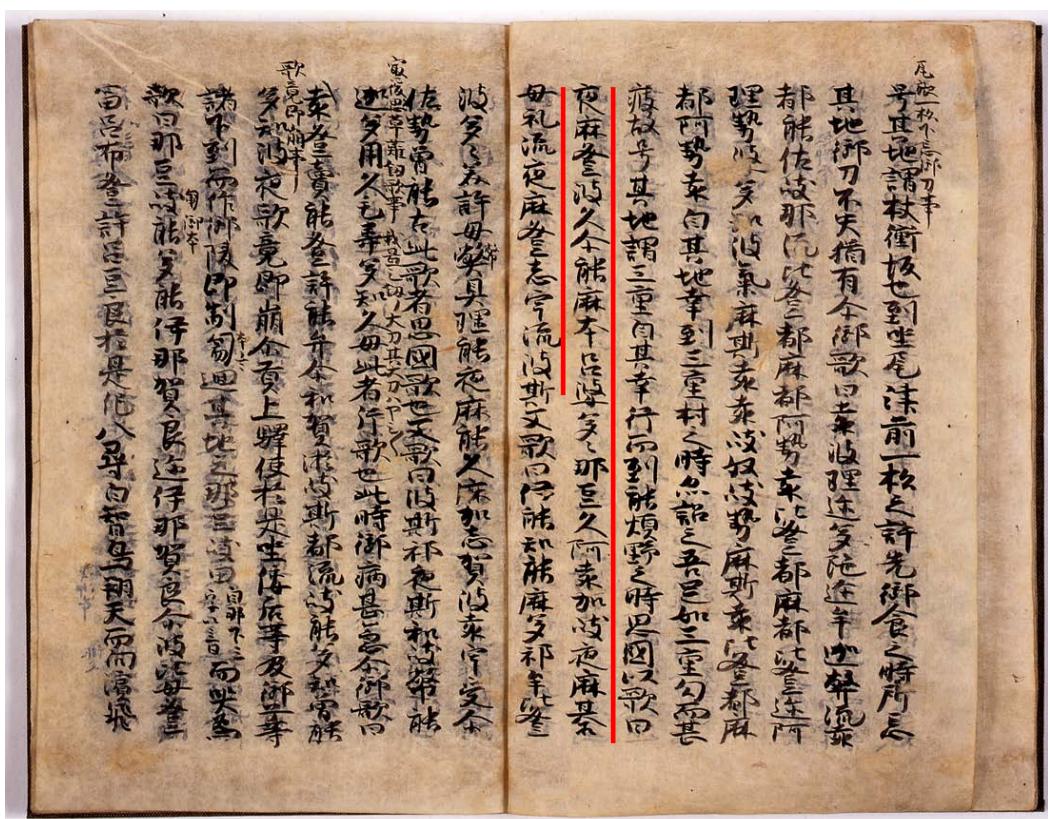
◆原文と読み：夜麻登波 久尓能麻本呂婆 多々那豆久 阿袁加岐  
ヤマトハ クニノマホロバ タタナツク アヲカキ

夜麻暮母礼流 夜麻登志 宇流波斯  
ヤマゴモレル ヤマトシ ウルハシ

◆口語訳：倭は真秀なる国どころ（秀でた国だ） たたみ連なる 青々とした垣

その山々に囲まれた 倭こそ美しい

※三浦佑之『口語訳 古事記〔完全版〕』2002年 文藝春秋を一部加筆抜粋



国宝 古事記 中巻（大須観音宝生院蔵）

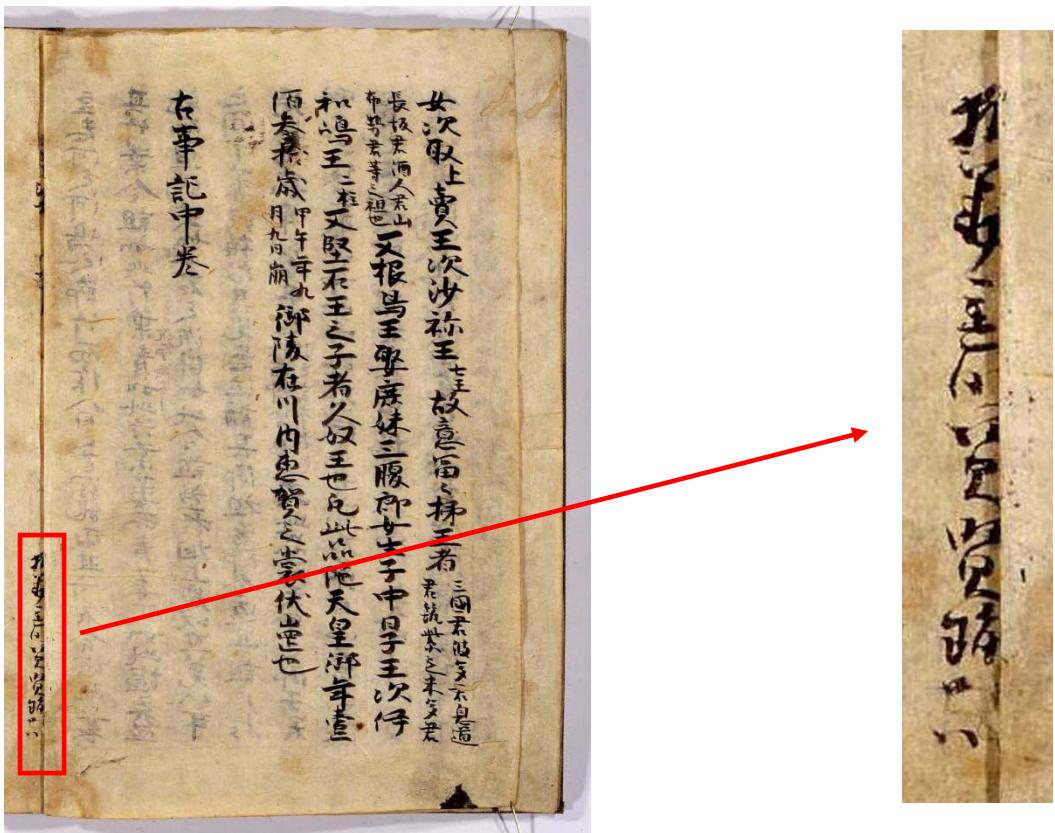
### 【3】最古の写本であることを証明したサイン

◆展示期間：7月10日～16日

「執筆金剛資賢瑜　〔俗老〕廿八」　〔 〕内は綴じられて読めない

※最終丁の糊代部分（中央の綴じ代に半分隠れています）

賢瑜けんゆは真福寺（現在の大須觀音宝生院）の僧侶。同寺に伝わる『秘藏宝鑑』の奥書に「応安第三天十一月賢瑜廿七歳」と書かれており、賢瑜は応安三年（1370）に27歳だったことが分かる。上記の墨書では賢瑜が28歳とあるので、この『古事記』は応安四年（1371）に書写されたことが判明した。



国宝 古事記 中巻（大須觀音宝生院蔵）

# 古事記 諸写本・版本・注釈書の展示箇所

平成24年6月6日作成

奈良国立博物館

		上	中				下			
		6/16~7/16	6/16~24	6/26~7/1	7/3~8	7/10~16	6/16~24	6/26~7/1	7/3~8	7/10~16
14	真福寺本		倭建命、東国平定。あづまはやはや (景行記)	倭建命、能煩野に没す。やまとはくにのまほろば (景行記)		卷末、賢瑜墨書、本奥書	卷頭		軽太子、妹の軽大郎女に懸想 (允恭記)	
15	春瑜本	天照大神、天岩屋戸を開く								
17	梵舜本	序文末と上巻冒頭	倭建命、東国平定。あづまはやはや (景行記)				軽太子と穴穂皇子と軽大郎女（衣通郎女）の兄妹関係 (允恭記)			
18	鼈頭古事記	稻羽（因幡）の（白）兎	倭建命、能煩野に崩す。やまとはくにのまほろば (景行記)				軽太子、妹の軽大郎女に懸想 (允恭記)			
20	寛永版本 宣長書入		倭建命、能煩野で崩じた後、白鳥となり天翔る (景行記)							
22	古事記伝 草稿本		倭建命、能煩野に崩す (景行記)				葛城一言主神 (雄略記)			
23	古事記伝 再稿本		倭建命、能煩野に崩す (景行記)				葛城一言主神 (雄略記)			